

# ヒ素除去 安く簡単に

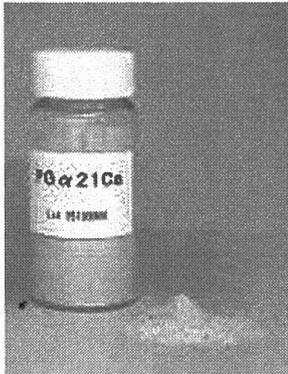
## 納豆ネバネバ成分活用

阪大など

大阪大学の宇山浩教授と污水処理を手掛ける日本ポリグル（大阪市）は十二日、地熱発電所や鉱山などから出るヒ素汚染水を、簡便で安価に排水基準以下まで浄化できる技術を開発したと発表し

た。酸化処理と納豆のネバネバ成分であるポリグルタミン酸による凝集処理を組み合わせた。二三年後をめどに実用化を目指す。

まずヒ素汚染水を過酸化水素などで酸化し、えで硫酸鉄を使って吸着する。その後、凝集剤（写真）で処理し、最後にろ過する。ヒ素



ろ、一度の工程で排水基準の〇・一PPMを下回るこ

とができた。今後はさらに工夫を加え、凝集剤の使用量削減や飲用水向け技術の確立などを目指す。

ヒ素は地熱発電に使う水や鉱山の排水、トンネル工事などでわき出る水などに含まれているケースが多い。処理技術にはイオン交換や膜で除去するなどの手法もあるが、全体の処理費用は高くなってしまうという。新技術は簡便で安価な手法として実用化、国内だけでなく中国やインド、バングラデシュなどアジア諸国でも展開を目指す。